

## 刊行にあたって

この度、東京医療保健大学大学院医療保健学研究科感染制御学では、第1回公開講座を、メインテーマ“感染制御の歩む道”と題して、2008年7月5日（土）、13時より東京ステーションコンファランスにおいて開催することになりました。この公開講座では、現在の専任教育職員および大学院前期2年生全員が、講座の役割を担うことになり、講演集を当日資料として配布できるように企画いたしました。その企画段階で、どうせ講演集を作るのであれば、後に残せるようなものにしたらいと考え、更に欲をかい、いっそのこと感染制御に関する定期刊行物にしてはどうかという結論に到達しました。当初は年2回の刊行として、次号からは、当大学院内部の者のみならず、感染制御大学院教育協議会のメンバーその他からの寄稿をも歓迎したいと考えております。

東京医療保健大学大学院は、社会経験を積まれた方を対象として開設いたしました。従いまして、大学院生とはいえ、数々の実践経験を積んでおり、そのような経験に基づく提案、または、研究成果、文献的考察、報告などを掲載し、広く公開してゆきたく発刊いたします。

最近になって、感染制御策は医療安全策の一部として包含される傾向にありますが、狭義の医療安全策と感染制御策とは、些かその内容を異にしております。感染制御学の歴史は、決して古いものではありませんが、狭義の医療安全策に比べれば、その積み重ねられてきた実績には大きな差異があります。

一方、感染制御策の課題は、次から次へと新たに誕生して来ており、実践現場の中心となって活躍できる人材の育成が急務です。特に、チーム医療を支える医師以外の職種における専門職の重要性が認識されております。医療関連企業におきます専門職に関しましてもその必要性が高まっております。関係者全員が、情報交換をおこなって切磋琢磨しあい、質の水準向上に努めることが切望されています。

このような状況におきまして今回の第1回公開講座を開催することになり、これを機会に専門の情報交換誌を刊行して、感染制御学の質向上に資することが出来れば何よりの喜びとするところであります。この雑誌が、近い将来、専門誌として原著論文の掲載に関しても高い水準を得られるか否かは別問題としても、英文誌としての道をも歩んでいければ、国際的にも評価される日本の感染制御に関わる情報誌として評価されていくことが可能でありましょう。未だ如何なる道を歩めるかは不明ですが、以上のような方向性を持つべく努力していきたく考えておりますので、ご関係される皆様方の暖かいご指導とご支援とを頂戴いたしますことを、切にお願い申し上げます。

2008年7月5日

東京医療保健大学／大学院 学長 小林寛伊